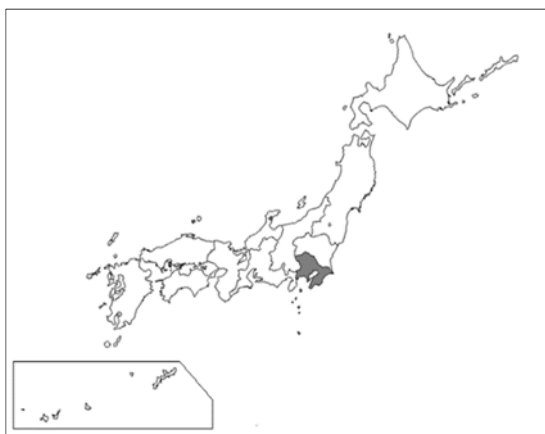


## (4) 南 関 東



南関東地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はこのところ弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（  は上方に変更、  は下方に変更）。

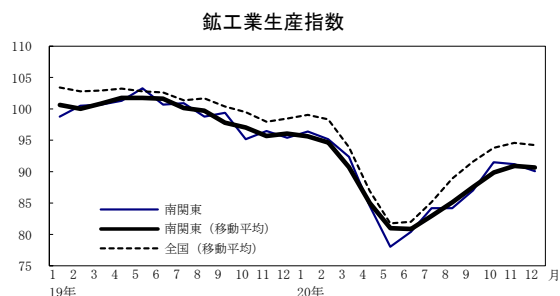
### 前回からの主要変更点

	前回（令和2年12月）	今回（令和3年3月）	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。なお、ヒアリングによれば、足下の感染者数増加による下振れ懸念が一部の業種で強まっている	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	↓
個人消費	持ち直している。なお、ヒアリングによれば、足下における感染者数増加による下振れ懸念が一部の業種で強まっている	このところ弱含んでいる	↓

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直している。

10-12月期の鉱工業生産は、「汎・生産・業務用機械」が増加したこと、「電子デバ、電気・情報通信」が増加したこと等により、前期比6.8%増となった。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。南関東の最新月は速報値。  
 2. 全国及び南関東の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。  
 3. 南関東は内閣府にて算出。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7-9 月期	10-12 月期	10月	11月	12月
石油・石炭、化学、プラスチック	22.2	2.7	3.7	2.1	▲3.2	2.6
輸送機械	14.1	51.3	9.9	3.3	0.5	▲0.6
汎・生産・業務用機械	13.7	▲2.8	12.6	10.0	5.1	▲5.6
電子デバ、電気・情報通信	12.6	▲3.3	11.8	13.8	▲0.5	▲4.9
食品・たばこ	12.4	1.0	—	2.1	▲2.1	—
鉱工業	100.0	5.1	6.8	5.2	▲0.3	▲1.2

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
 2. 10-12月期、12月は速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの、食品・たばこは公表されていない。  
 3. 業種は内閣府にて分類。

## 2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ弱含んでいる。

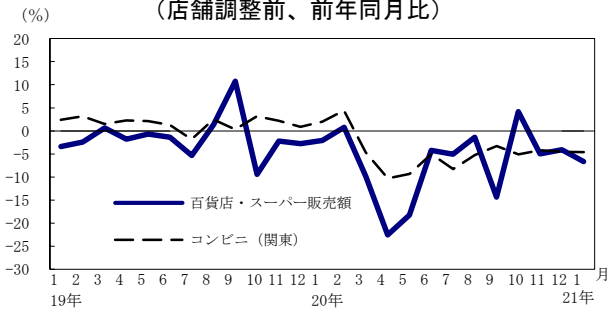
### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10-12月期は前期比3.8%増となった。月別にみると、10月は前月比1.3%増、11月は同0.5%増、12月は同1.2%減となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10-12月期は前年同期比2.0%減となった。月別にみると、10月は前年同月比4.2%増、11月は同5.0%減、12月は同4.1%減となった。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



	2020年	2020年			2021年
	10-12月	10月	11月	12月	1月
RDEI (消費*1)	3.8	1.3	0.5	▲1.2	—
百貨店・スーパー(*2)	▲2.0	4.2	▲5.0	▲4.1	▲6.6
コンビニ(*3)	▲4.6	▲5.1	▲4.2	▲4.5	▲4.6
乗用車(*4)	14.3	28.9	6.5	9.8	7.1
(季節調整値)(*4)	8.9	11.0	▲5.3	▲1.7	1.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

2021年1月は速報値。

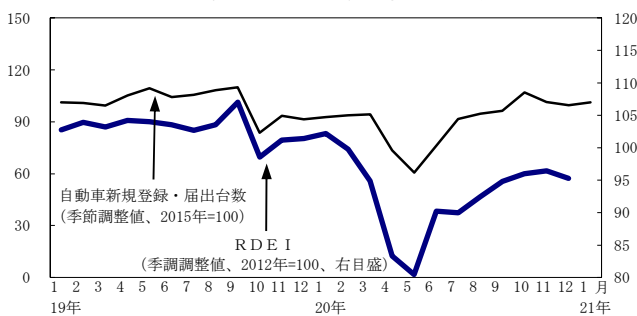
3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

2021年1月は速報値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移

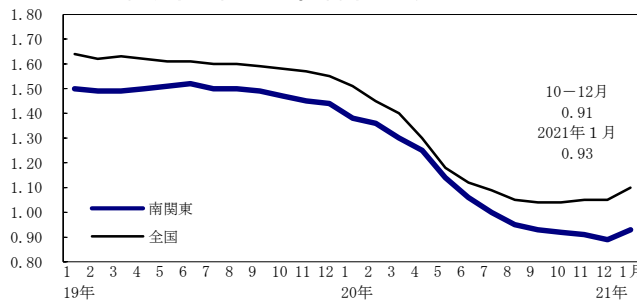


## 3. 雇用情勢

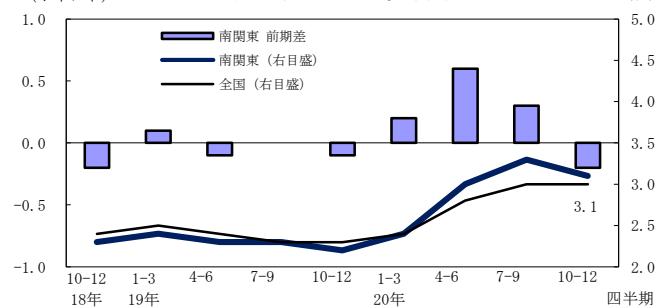
雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。

有効求人倍率 (季節調整値、就業地別)



完全失業率 (季節調整値)



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年1月調査) 景気判断理由の概要

4. 南関東

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	×	・アルコール提供は19時まで、20時で閉店といわれており、夜の客が全く来ていない。ランチも、今まで6人、8人で来ていた客が、ほぼ1人ずつでしか来ていない(一般レストラン)。
			・新型コロナウイルスの影響で、不要不急の外出を避けたり、Go To Travelキャンペーンも一時停止になってしまった。電話で客の様子をうかがったところ、どこにも出られない状況なので、とても旅行気分ではないということである(旅行代理店)。
		・新型コロナウイルス感染者数の増加により緊急事態宣言が再発出されたため、受注は前月並みで増えていない(通信会社)。	
	企業 動向 関連		・予定をしていた広告宣伝費の削減などが発生する企業が多くなってきている(広告代理店)。
		×	・繁忙期になったが、計画していた物量が思った以上に増えず、収益が伸び悩んでいる(輸送業)。
	雇用 関連		・緊急事態宣言の再発出により、企業の採用活動がやや鈍化している(職業安定所)。
		・インターンシップイベントは多く開催されているが、参加企業は増えない。大手企業は独自に展開しているようだが、中小企業の動きは静かである(民間職業紹介機関)。	
その他の特徴 コメント		：緊急事態宣言の再発出後、一部食品の動きが変わってきている。前年春の緊急事態宣言発出時の売行きに比べるとそれほど伸びはないが、1回に購入する量や金額が増えている(スーパー)。 ×：Go To Travelキャンペーンの一時停止及び緊急事態宣言の再発出に伴い、年末年始から非常に厳しい状況が続いている(都市型ホテル)。	
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・新型コロナウイルス感染者数の増加傾向が落ち着き、ワクチン接種が始まらなると、状況は変わらない(コンビニ)。
			・やはり新型コロナウイルスの影響がかなり大きく、客も外に出てはいけないという自粛ムードが前月より強くなっている。この先いつまで続くか心配だが、当分は我々の仕事はこのまま右下がりになってしまうだろうと感じている(タクシー運転手)。
	企業 動向 関連		・取引先の話では、大きく増えることはないとのことだが、海外向けは順調である(化学工業)。
			・全ては新型コロナウイルスの終息にかかっている。出勤率を抑えているテナントのほか、業績の悪化により事務所を解約したいと申し出るテナントが出てきそうで、この先の見通しは暗い(不動産業)。
雇用 関連		・緊急事態宣言が再発出されたこともあり、企業が採用に今以上に積極的になる可能性は低い(人材派遣会社)。	
その他の特徴 コメント		：新型コロナウイルス感染者数が大きく減少し、緊急事態宣言期間が終了すれば、来客数が少しずつ回復する。また、ワクチン接種がスタートすれば景気には追い風になる(百貨店)。 ：新型コロナウイルスワクチンの投入による市場回復が予想される(その他製造業[化粧品])。	

(D I) 現状・先行き判断D I (南関東)の推移(季節調整値)

